

# あおぞら

発行：愛知県被災者支援センター  
住所：名古屋市中区三の丸 3-2-1  
愛知県東大手庁舎 1階  
TEL：052-954-6722  
FAX：052-954-6993  
開館：月曜～金曜 10時～17時



はるくん(3さい)

はまだ農園で  
虫をつかまえたよ！  
カエルも！



うたくん(6さい)

## 夏休み特大号

皆さま、残暑お見舞い申し上げます！

(熱中症、体調管理に  
くれぐれもお気をつけください)



### 《もくじ》

- P1.表紙
- P2-3.「森林浴・石窯交流会」
- P4. 夏休み・ユース交流会
- P5. インタビュー(矢井さん)
- P6.「避難の合理性」(黒田氏)
- P7. 愛知県被災者支援センターから
- P8. イベント情報/クレープ・レシピ

4回目となった今回の「森林浴・石窯交流会」の参加者は、7世帯23名でした。主催者の風舎の磯貝さん他、会員の皆さんとで、手作りのピザと山の自然を楽しみました。

参加者のお一人の感想と、風舎の太田さんに交流会を主催する思いや風舎の夢を寄せていただきました。



〈ピザ生地を伸ばし、トッピングはお好みで〉

### 「石窯交流会に参加して」



当日は雨が心配でしたが、降らなくて良かったです。今回で3回目くらいの参加になりますが、会場になるエトセ工房はとても素敵な場所にあります。

私はいつも、その時に手に入るハーブなどをいろいろ持ち込んで楽しんでいますが、今回はじゃがいもを焼いていたのでそれを拝借し、持ってきたローズマリーを散らしました。参加者の方が「このピザにはアンチョビが欲しいね」と言ったところ、本当

にアンチョビが登場しました。じゃがいもが乗っていて重かっただろうピザも、参加者のお子さんが上手に焼いてくれました。

自分が作ったピザを喜んで食べてもらえるのは嬉しいものです。バーベキューとかでは、食べることが専門の子ども達も、ここでは皆、料理人です。生地を伸ばすところから具を乗せるまで、自分の感性で作っていました。私もご馳走になりました。とても美味しかったです。

「うさぎや菜園」の方が持ってきてくれた無農薬の野菜は、生でつまみ食いしました。昔食べていた旨味のたっぷり詰まった野菜で、美味しかったです。また参加したいです。

(舩館 陽子)



〈次々と出来上がってくるピザ生地を石窯に入れ込む〉



〈個性豊かなピザに、話の花が広がる〉

寄稿 避難者とのピザ体験をしながらの交流会～風舎が見る夢～

(NPO 法人風舎理事 太田 武志)



2017年の冬のある日、NPO 法人風舎代表の磯貝さんとエトセ工房でお茶を飲んでいたら、一人の女性が訪ねてこられた。話をする中で、福島原発事故以後に福島から自主避難されて来

られた方ということを知った。磯貝さんから個人の思いとして、その人とその家族を元気づけるピザパーティをしたいという話があった。話は広がり、その後風舎の活動のひとつとなった。

磯貝さんがピザパーティを思いついた理由は、「楽しい時間を過ごしたい」ということだと私は理解している。ピザを焼く窯があり、場所があり、ノウハウもある。パーティをやってみたら、楽しいのではないかと。

パーティで「自分のピザが焼けて、いくつかに切り分けたら、その一つをまずは自分が取り、残りは他の人に分けてください」と磯貝さんが一つのルールをいつも提案する。食事は一人よりも二人、三人と料理を囲んでおしゃべりしながら食べた方が美味しい。食べながら話した方が話も弾んで楽しくなる。

人や社会の豊かさを表す磯貝さんの言葉に、「濃密な時間」というのがある。時間は目に見えないが、誰にも等しく一日24時間あり、前借りすることも貯め置くこともできない。同じ時間をどうしたら濃密なものにできるのか。そのための工夫をあれこれ考えているのが風舎なのだと思う。

風舎が求める豊かさ・楽しさは、物資を費消(ひしょう\*①)することを目的とするような享乐的な世界とは距離があり、手や体を使った体験を通

して成長するような喜びの中にある。その活動の基盤にあるのは、「包摂(ほうせつ\*②)」と「共生」という考え方だと私は考えている。それはそのまま風舎が夢見る社会の基盤とも言えると思う。

3.11以降、行政、企業、NPO、地域社会、個人、それぞれに混迷し、日本の社会全体に不全な感覚、不協和音のようなものを私は感じる。風舎の活動は、今の社会に対する一つの生き方の提案なのだと思う。

ピザパーティは、提案を実感できる形にして表したもののひとつ。風舎は文字通り風が吹き抜ける場所。いつも新鮮な空気の中で深呼吸できるような場所でありたいと思う。

私が理事として「風舎で見る夢」が、「風舎が見る夢」と似ているのだと思うから、そこに居たいと思う。自主避難された方々と過ごす時間は、支援というよりもむしろ私たちが励まされている時間のように思っている。

\*①費消(使い果たす) \*②「包摂」(一つの事柄をより大きな範囲の事柄の中にとりこむ)



〈車上の移動式石窯〉



〈日本ミツバチの巣箱も〉

交流会報告 ②「夏休み・ユース交流会」@グローバルカフェ (名古屋市中村区) 8/12

これまでなかった高校生・大学生等のユース世代の避難者を対象とした「夏休み・ユース交流会」は、グローバルカフェのご協力で実現することができました。3世帯 5名の参加者、グローバルカフェ・スタッフのボランティア等5名、被災者支援センターと合わせて12名の参加でした。

本場フランスの家庭的なクレープを教えてもらいながら、参加してくれたベルギー、台湾、フランスの若者たちとちょっとドキドキな英語混じりの交流を楽しみました。参加者の感想の一部を抜粋してご紹介します。



◎クレープ、めちゃくちゃおいしかったし、すごく楽しかったです◎  
英語で会話するのはすごく難しいけど、話せるようになりたいと思った一日でした。外国の友達を作りたいです。(A)

◎ I enjoyed this moment. It is always nice to discover new people and their culture. And I think that food is good link for that. Thank you! (C)



◎今回のイベントで、はじめてグローバルカフェがあることを知りました。こういう交流の場所があるのは、とてもいいですね。クレープ、本当においしかったです。またこういう交流会があれば、参加したいです (Y)

◎クレープを食べながら会話することができて、とても楽しかった。他の国の食の文化や、それ以外についても話すことができたのがよかった。英語での会話がうまくいかなかったのが、これを機に、自分の英語力を向上させていきたいと思った (S)

◎クレープ、ものすごくおいしかったです！  
4か国の人が一度に集まっている場は初めてだったので、新鮮でした。言っていることはほとんど分かったけど、うまく伝えることができないと感じたので、改めて英語を覚えなくちゃと思いました。楽しかったです◎ (T)

【Glocal スタッフから】  
★皆さんの笑い声が聞けて、私もうれしかったです。Glocal はいろんな人をつなぎたいと考えているので、このようなイベントが開催されたのは、本当にうれしいことです。また機会がありましたら、ぜひGlocal を使っていただけたらと思います。(T)



★素晴らしい時間で、ボクの国の文化を日本の学生たちと分かち合えて、楽しめました。次はもっとたくさんの日本人・外国人と一緒に交流できるようにしましょう。食べ物は、人びとが共有し理解し合えるので、もっと輪が大きくなるよう考えましょう！ (G)

(\*クレープのレシピは P8 に紹介)

## インタビュー 矢井香織さん・もも凜さん

矢井さんたちは、福島県伊達郡国見町から弥富市へ避難し、現在は春日井市にお住まいです。母香織さんと長女のもも凜さん（高校2年生）に、愛知県被災者支援センターでお話を聞かせて頂きました。

### 「避難の時は？」

香 織さん：

当時小学校2年生だった娘と、弥富市の知り合いを頼りに避難してきました。避難の途中は、「戦争」のような雰囲気でした。実際の戦争は知りませんが。決まっていた新しい仕事とで迷い大変な事もありましたが、娘の将来に原発の放射能の影響がでたら大変、後悔はしたくないとの思いで。今は良かったと思っています。

たまに実家の方へ帰ると、行き場のない黒いフレコンバックがあちこち積みあがっています。今もかつてのママ友たちとやり取りはしていて、帰ると皆、集まってくれます。

でも、もも凜は友達とは会えていないね。みんな小さかったから忘れてしまっているし、もうこちらの生活の方が長くなってきたからね。

もも凜さん：

福島のことあまり覚えていないし、こっちに友達がたくさんいるし…。ふるさとは弥富かな？

香 織さん：

原発事故で避難して、人生変わっても、違う世界が見えてきてよかったと、前を向いて生きています。

### 「もも凜さんの所属するインターアクトクラブって、どんな部活動？」



もも凜さん：

中学校では和太鼓部でしたが、インターアクト部顧問の先生に魅かれました。“熱い”松本先生です。インターアクト部がすごく楽しそうで、入りました。

高齢者や障がい者施設で、目の前の人を笑顔にするために、年間300回を超える活動を行っています。またIAC（いっぱいありがとうカンパニ



ー）は、名前の通り「ありがとう」を届けるため始まりました。普段ボランティアをされていて、私たちが「ありがとう」と言われる機会があっても、障がい者や高齢者の方々が「ありがとう」と言われる機会が少ないことに気がつきました。何かを作ってもらうことで、「ありがとう」を届けられると思いました。今はメモ帳を作ってもらっています。

昨年は全国高校生SBP（ソーシャルビジネスプロジェクト）交流フェアで2位になりました！

ボランティア部で人と接するのは、楽しいです。

### 「香織さんの近況は？」

香 織さん：

再婚して生まれた息子は3才になりました。小さいながら大好きなお姉ちゃんと張り合っていますよ。少し前にした病気も完治しました。医療事務系の職場が変わって、フルタイムで働くようになり、保育園の送り迎えなど、忙しい毎日です。

### 「もも凜さんの将来の目標は？」

もも凜さん：

小さいころからのあこがれの医療関係に進み、看護師を目指しています。今、どの大学に行こうか悩み中です。

一人暮らしもしたいな。

## あれから8年半、「避難生活は?」「福島での生活は?」「戻った人は今?」

愛知県被災者支援センターは、東日本大震災による地震・津波・原発事故からの避難者を支援していますが、避難している方、被災地に留まっている方、帰還された方のいずれの考え・立場も尊重します。世間ではそれぞれの立場の人、被災地以外の人々との溝、いわゆる“分断”が問題となっています。

それを踏まえて、今回はまず、愛知県を始め各地に避難されている方々の避難に至った思いなどを調査研究されている黒田由彦氏（椋山女学園大学）の避難者に関する「避難の合理性」を取り上げてみます。

2011年に愛知県被災者支援センターが避難者世帯にアンケート調査を実施し、その分析を黒田氏（当時名古屋大学）に依頼し、「どのような支援が必要か」を考えてきました。黒田氏はその後も2012年、2013年と独自にアンケート・聞き取り調査をされ、ご記憶の方もおられると思います。

なおここでは、「区域外避難の合理性と被害」（『環境と公害』Vol.48 No.3）から、「避難の合理性」の部分について、黒田氏のアドバイスを受けて簡単にまとめました。

### 「区域外避難の合理性」 黒田由彦氏（椋山女学園大学 地域社会学 災害社会学）

原発事故という想定外の事態に、住民にとって“状況の定義”（※）がどのようなものだったか？

（※）“状況の定義”=人はその時点での情報を元に、自分の置かれた状況を認識し、「現実」を生きている

①原発事故の危険性・放射能は目に見えない、におい・色もなく、専門機器がなければわからない。

②深刻な原発事故は住民にとって想定外、危険性の十分な知識がなかった。——以上を前提に、

#### Q：避難の合理性は？

①災害直後、不十分な情報が錯綜した  
（ロコミ・たまたまつながった電話など）

⇒放射線被ばくに脅威を感じながら、

②避難指示区域が変化した  
（地域が3、10、20キロ圏と変わってきた）

⇒信頼できる情報が得られず、

③“直ちに影響ない”ひょっとしたら将来影響があるかも？ ⇒行政の一貫した対応がなく、

④被ばくの許容基準の設定（1ミリシーベルトが20ミリシーベルトに変わり、何を信じていいのか不信感）

⇒避難区域外でも将来健康被害のリスクがある状態にある

⇒以上4つの“状況の定義”から、**予防的に避難しても十分に合理性がある**。特に、子どもの被ばくを防ぎたいという親心は理解できる

#### Q：避難継続の合理性は？

①年間1mSv以上被爆しても健康上の被害がないとは科学的に立証されておらず、

②もしも将来ガンに罹患したとしても、それがこのたびの原発事故に伴う被ばくが原因であることをその時点で証明することは極めて困難だと予想され、

③したがって、健康被害に対する東京電力からの損害賠償や政府の公的サポートはほとんど

期待できないと考えられ、

④病気で苦しむのは自分だし、治療にかかる費用等も一切自己負担となり、その後の教育や職業キャリアに少なからぬ制約がかかる

⇒確率は大きくないかもしれないが、もしも将来本当にガンに罹患したらその被害は極めて重大であるので、その事態を避けるためには**やむをえず避難生活を継続するしかない、と考えても合理性がある**

次の機会には、被災地に留まる人の調査を8年間続けている「福島子ども健康プロジェクト」の成元哲氏（中京大）の『福島事故後の親子の生活と健康』から、また埼玉県での避難者支援の事例を原田峻氏（金城学院大）の『福玉便り』等から取り上げ、いろいろな考え・立場・支援のあり方を考えます。

## 愛知県被災者支援センターから

8月1日(木) 13:30~16:30に、「避難者の暮らしと健康を支える地域力について考えよう」をウインクあいち(JR名古屋駅前)にて開催しました。

愛知県に避難して来られた皆さんが抱える課題を共有し、今後の支援について一緒に考えましょうと呼びかけたところ、愛知県内で支援に関わってくださっている市町村行政担当者(防災部、福祉部等)9名、社会福祉協議会CSW等10名、専門家(医師、臨床心理士、司法書士、在宅保健師等)8名、支援団体(大学ボランティア、コープあいち、NPO関係等)10名、避難者支援に関心のある大学生4名、支援センタースタッフ等も併せると、55名が一堂に会する意見交換会となりました。

冒頭、栗田センター長から「避難者の皆さんが抱える様々な課題に対応するには、行政、地域コミュニティ、専門家、NPO等様々なセクターの連携が必要不可欠です。」と語りかけられた参加者の

皆さんは、金城学院大学 原田峻氏による基調講演『東日本大震災・原発事故による広域避難の経緯と支援の課題』に熱心に聞き入っていました。

原田氏は、埼玉県で避難者支援を行うNPO法人埼玉広域避難者支援センター理事でもあるという立場から、避難元の復興状況によって長期化する避難生活をもたらす問題、国による避難者支援策の課題等、私たちが我が事として取り組むべき点についての的確に語られました。

その後、高齢者・外国人家庭など支援を要する方に対する地域支援事例等を紹介しながら、会場の皆さんとともに今後の支援について考えました。参加された方たちからは、「避難者のニーズが個別化している」「問題はつながり合っているのだと知った」「支援を受ける側とする側の認識の違いが分かった」「市役所全体で支援の選択肢を増やしたい」などの声がありました。



愛知県への避難者  
876名  
(339世帯)  
※2019年7月現在



### 定期便の発送作業

### ボランティアを募集!!

毎月25日(土日に当たる場合は前倒し)に、皆さんへお届けする「あおぞら」、各種案内チラシなどの定期便の発送作業を、ボランティアの方たちと作業しています。7月の発送日には、愛知淑徳大学の学生2人も参加してくださいました。発送ボランティアを募集しています!お気軽にご参加ください。



## 9月イベント情報

開催日	イベント名 (会場)	内容 (主催)	最寄駅
9月7日 (土) 10:00~ 15:00	「伊勢湾台風60年 市民防災の集い」 (大同大学滝春キャンパス)	メインステージ (小島一宏さん) /体験型 イベント/防災シンポジウム/緊急車両展 示/記録フィルム上映・写真展等	名鉄常滑線 「大同町」 徒歩5分
9月8日 (日) 14:00~ 16:30	講演会「原発事故は、終わ っていない」(金山南ビル 名古屋都市センター14F)	第1部・吉田千亜氏講演「原発事故の避難 は可能か」、第2部・「原発事故避難訓練」 (主催:あゆみ R.P.NET)	JR・名鉄・地下鉄 「金山駅」 南口すぐ

※イベントの一部を掲載しています。その他のイベントや詳細は、同封 (前月号に同封している場合も) のチラシをご覧ください。

### Go チャンのクレープ・レシピ

#### 【クレープ 15~20枚分】



#### 【クレープ生地】

材料：薄力粉 500 グラム、  
牛乳 1 リットル、  
卵 6 個、油 (オリー  
ブオイル) 大さじ 3、  
塩・砂糖 少々

#### 【作り方】

- ① 薄力粉、卵、牛乳、油、塩、砂糖を混ぜる
- ② フライパンを弱火で熱し、少しの油を引く
- ③ お玉一杯の生地を取り、丸く広げて焼き、裏も焼く (両面で2分)
- ④ クレープが焼けたら、アルミホイルなどで冷めないように保温しておく

#### 【バナナ・チョコ クレープ】

材料：バナナ、板チョコレート、砂糖、  
生クリーム、粉砂糖

#### 【作り方】

- ① バナナを小さく切って、取り置く
- ② 鍋でチョコレート・砂糖 (甘さは好みで)・生クリームを溶かし、ソースを作り、切ったバナナを混ぜ込む
- ③ 焼いたクレープ生地をフライパンで温め、半分にバナナ・チョコのソースをのせる
- ④ 焼きあがったものを半分に折り、さらに半分に折る
- ⑤ 粉砂糖をふり、バナナ・チョコクレープ完成

## 編集後記



- ・今年の夏、福島県立磐城農業高校生徒 18 名が岡崎城西高校を訪問し親睦を深めた。未来会議で意見交換、発達支援の必要な子ども達と遊んだり三河大島で海水浴。岡崎といわきのロータリークラブ主催事業になりました。(K.E)
- ・人権の 避難所なれば 風呂トイレ 食事はワイン デザートもある [イタリア] (T.H)
- ・孫たちに鶴の折り方を教えてもらったMさんに感謝! 「水木しげるの戦争と新聞報道」展にて、水木しげる著『総員 玉砕せよ!』のマンガ本は、みんなで回し読み。展示場で鳴っていた「防空警報」の音が耳に残り、その日の晩 眠れなかった子も。(I.S)
- ・残り少なくなった夏休み。あと少し、宿題、遊び、お手伝い、自由時間もがんばりましょう! (T.K)